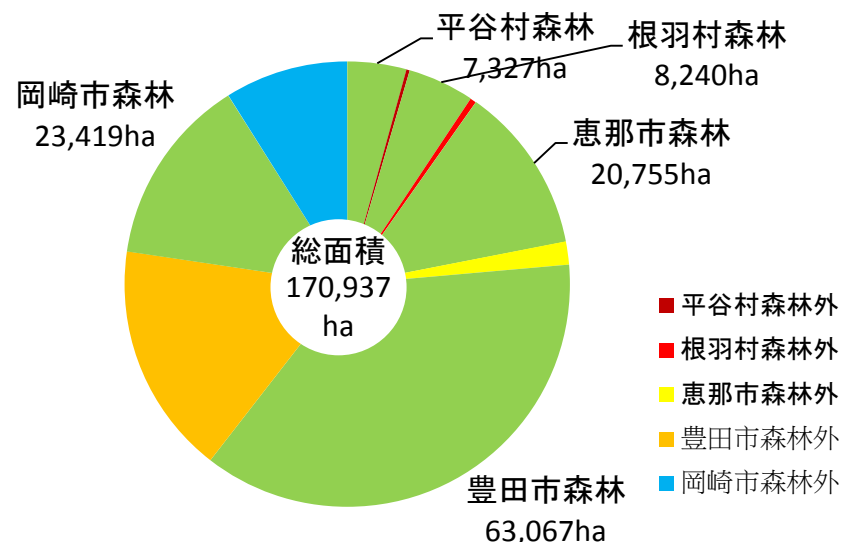
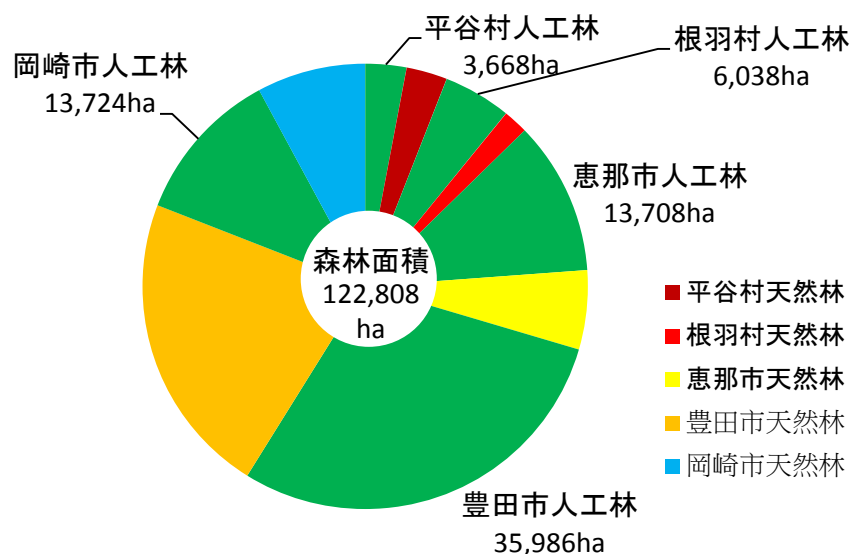


# データでみる 矢作川流域の森

★矢作川流域の72%は森林です。流域の森林に降る雨が集まって矢作川の水の流れになります。森林面積は1970～2000年の30年間でほとんど変化していません。

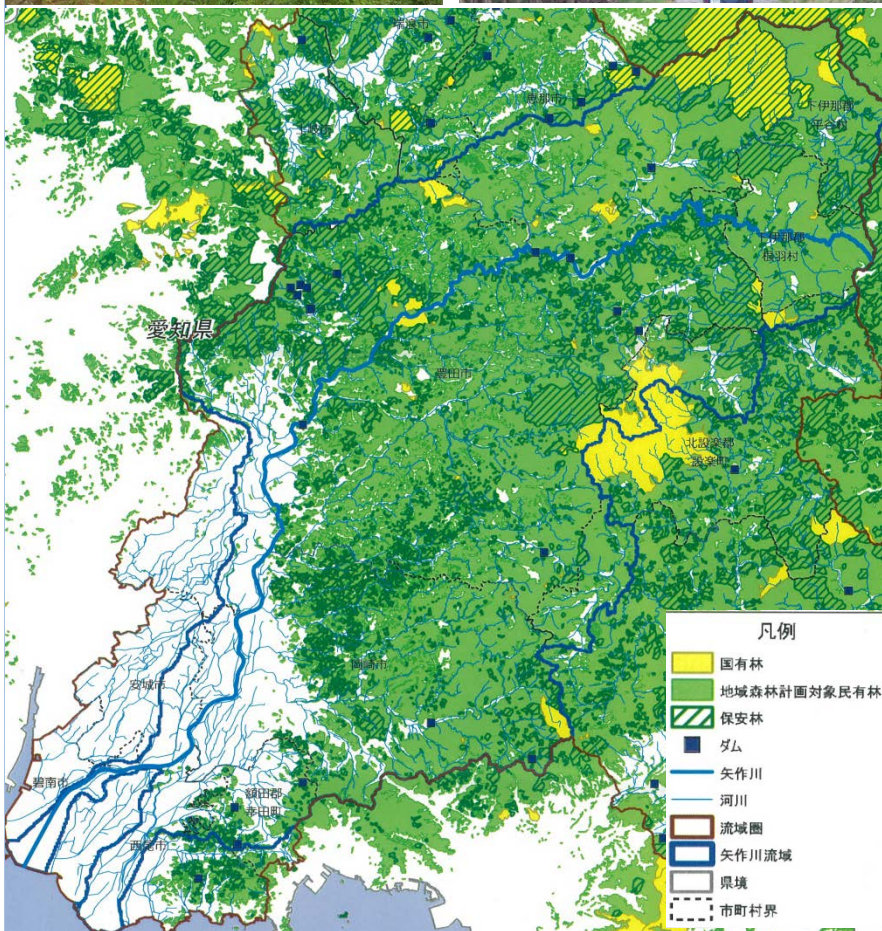


★矢作川流域の森林のうち59%が人工林です。人工林面積は1970～2000年の30年間で1.2倍に拡大しました。



2000年世界農林業センサスより、洲崎燈子氏のデータによる

# 矢作川流域の森



# 矢作川流域の森づくり

★矢作川流域の市の森づくり計画

☆岡崎市：2040年までの30年間に、放置人工林5,000haをゼロに、総間伐実施量12,500haに。100年後には、人工林率を60%から40%に。人工林の1/3は天然林化する

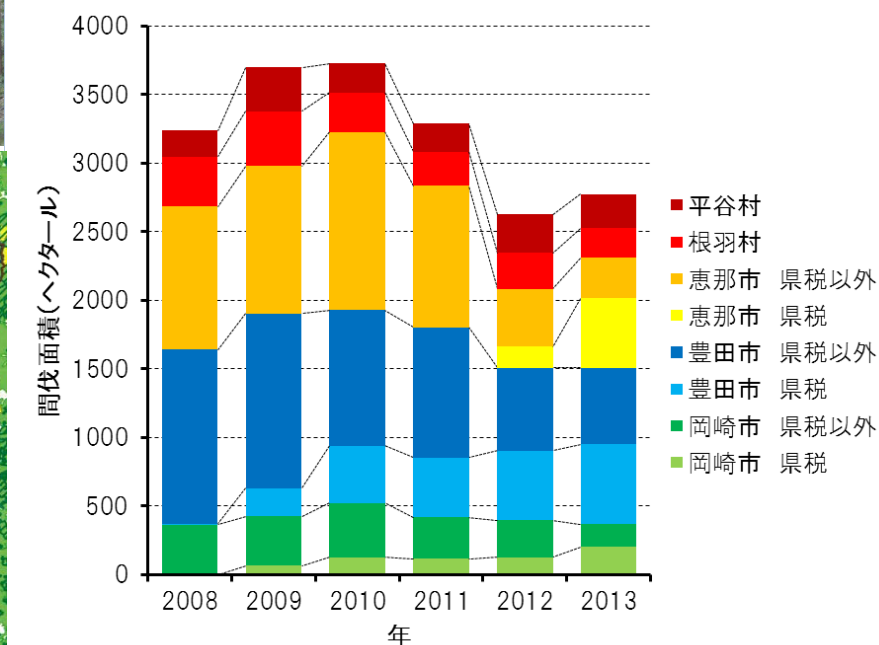
☆豊田市：2027年までの20年間に、過密人工林20,000haをゼロにする。100年後には、人工林率を50%から25～35%に。人工林の半分～3割を天然林化する

☆恵那市：2015年までの6年間に、過密人工林6,900haを間伐

★過去6年間の間伐面積の実績

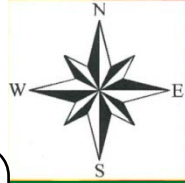
2010年をピークに減少傾向。2009年に民主党政権の「森林・林業再生プラン」により、国庫補助金をもらうには搬出が義務付けられたため、面積が減少した。

愛知県、岐阜県では森林環境税による所有者負担なしの伐り置き間伐への依存度が年々高まりつつある。



岡崎市、豊田市、恵那市、根羽村、長野県提供のデータによる

# 矢作川流域の 特徴的な森林

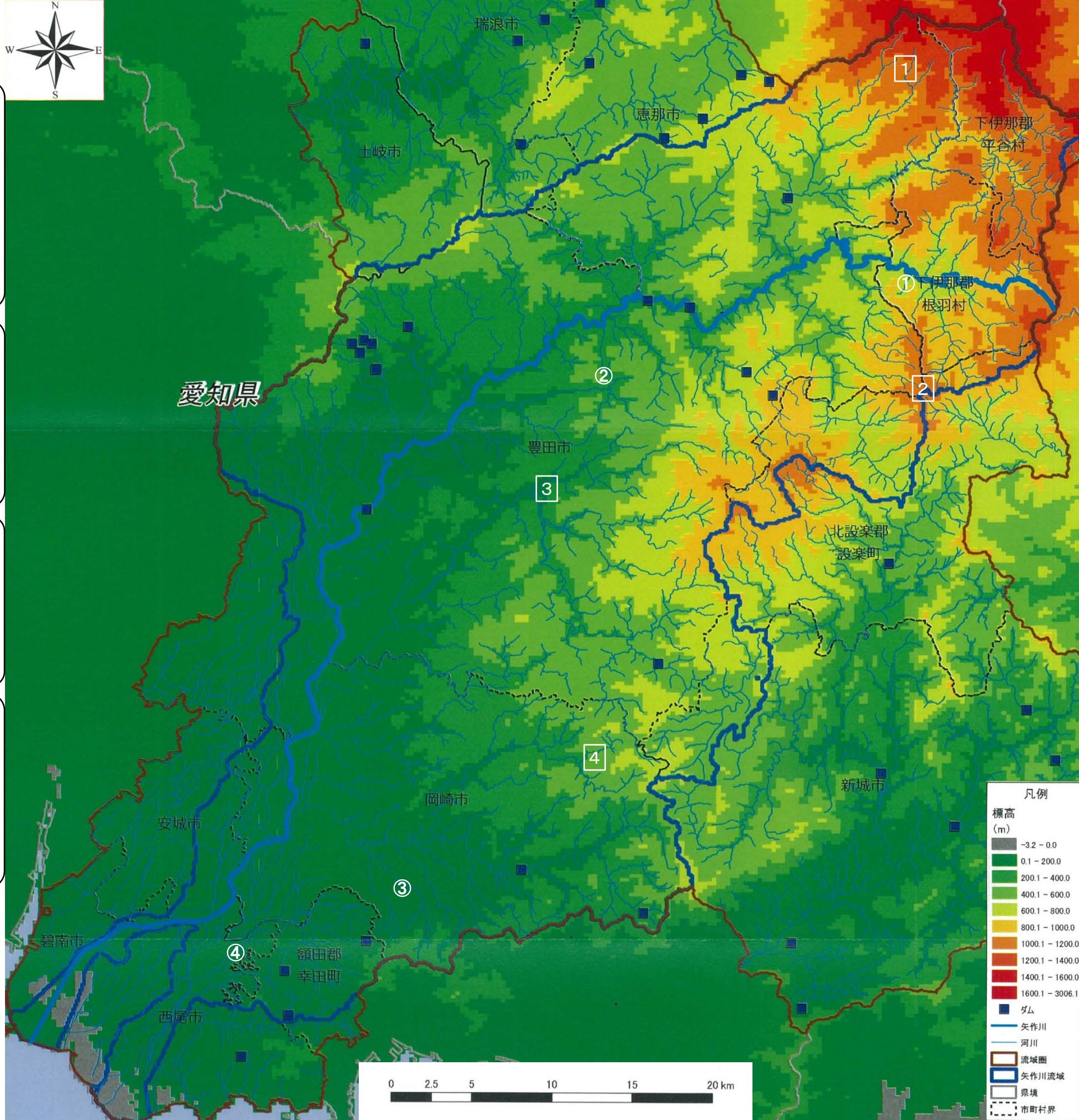


① アライダシ原生林

② 面の木峠ブナ林

③ 飯盛山の混交林

④ 長坂の高齢人工林



# 矢作川流域の巨木

① 月瀬の大杉  
樹高40m、幹廻り約14m、樹齢約1800年。昔から虫歯に病む者が祈願すると霊験が著しく、また大事変がおこるときには前兆として大枝が折れると語り継がれている。旧月瀬村の産宮のご神木として古来から尊崇され、地区民の手で保護されて来た。

② 杉本の貞観スギ  
胸高幹回り約12m、根周囲約15m、樹高45mを超える大きさを誇り、今なお成長を続けている。神明神社の創建が、貞観年間(859～876)と伝えられ、創建当初に社頭に植えられたと伝承されている。

③ 藤川の松並木  
藤川宿は東海道五十三次の37番目の宿場として栄えていました。約1kmの間にクロマツ約90本がそそり立ち、中には根まわり約2m、樹高約30mという巨木もあります。

④ 神明社の大シイ  
樹齢約1000年と推定される巨木で、樹高8m、根囲20m、胸高囲7mもある県下最大のスダジイの老樹。主幹は伊勢湾台風で倒壊、枯死したが、胸高囲1メートル前後の2本の枝幹が天高く枝を広げています。

